

特定外来生物

緊急対策外来種

重点対策外来種

# ハクビシン

学名 *Paguma larvata*



生物法による特定外来生物の指定はされていません。

昼間は樹洞や岩穴、人家の屋根裏等で休憩し、夜になると樹上で果実や種子を採食します。基本的に母仔を中心とした家族単位で生活しています。雑食性で果実や種子を好みますが、昆虫類、魚類、残飯等も食べます。

## 影響

三浦半島にはこれまで木登りが得意な中型哺乳類は存在しませんでした。木の実を好み、体が大きいので1個体でもかなりの量を食べます。このため果樹園への影響が大きく、ミカンやナシ、ブドウ、カキなどへの被害が出ています。

小動物の補食をすることはありますが、アライグマほど一生懸命ではないようです。他の中型哺乳類に対しても遠慮する性格の持ち主です。そのためか、三浦半島では緑地より市街地の方が多く生息しています。

本来は樹洞を巣にしますが、三浦半島では天井裏や戸袋、捨て荒れている自動車や倉庫などに巣を作ります。糞尿による家屋への被害も報告されています。

### 農作物の被害

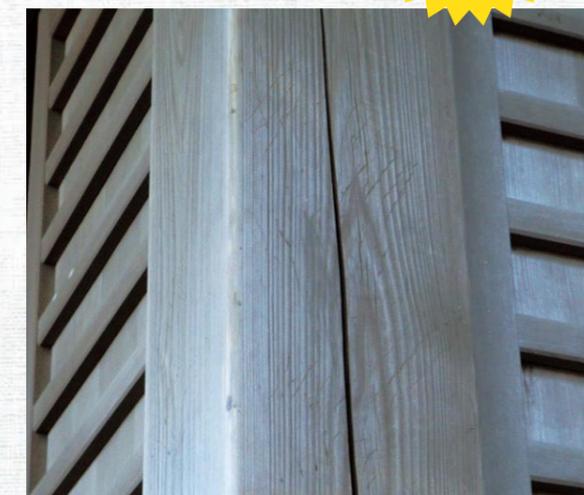


喰われた果樹

### 家屋被害



物置小屋にハクビシンが住み着き、荒らされてしまった家屋。何ヶ月も糞尿の臭いがとれませんでした。



神社の柱に残る爪痕  
ハクビシンは、垂直面の上り下りも得意

ジャコウネコ科に属する中型哺乳類で、全長は1m程度になります。体色は灰褐色で、顔面と四肢の下部は黒褐色、額下部から鼻鏡部中央に白線が入ります。漢字では白鼻芯と書きます。もともとはヒマラヤ、中国南部、台湾、マレー半島、スマトラ、ボルネオなどの地域に生息していますが、原産地では森林破壊や食用などによる乱獲で減少しています。

日本には江戸時代の絵画にハクビシンと思われる動物が描かれているなど、古くから関わりのある動物だと考えられています。現在生息しているハクビシンの多くは戦前に毛皮をとるために輸入し、養殖していた個体に由来するものと思われます。輸入元についてははっきりした記録は残っていないものの、遺伝子の分析では台湾に由来する結果が出ています。侵入時期に諸説あるため、外来



# 駆除の方法

多くの自治体が無料で箱罠を貸し出しており、使用に際し狩猟免許等は必要ありません。箱罠は果樹の近くや天井裏等、普段よく現れる場所に設置します。設置場所は平らで、罠がぐらぐらしない場所を選びます。罠の下を掘って餌をとられないよう、舗装面に置くか、罠の下に板を敷く必要があります。通り道から2メートル程度寄せ餌を撒き、罠の中へ誘導します。餌には果物が適していますが、落花生、煮干し、パン、唐揚げなど、いくつか試してみると効果的です。また、他の動物にとられてしまう場合は罠をシートで覆ったり、餌を針金で固定する等の工夫が必要です。

罠は毎日見回り、捕獲したらその日のうちに自治体に回収してもらいます。捕獲をされた状態で数日おくのは動物愛護上問題があるだけでなく、周囲の個体に箱罠が危険なものであると知らせる原因になります。

最近では、箱罠で危険にあった経験のある個体が逃げ延び、箱罠を忌避する「トラップシャイ」の個体が増加しており、問題になっています。壊れかかっている罠を使っていたり、トリガーが正常に動作しない場所に罠を設置することが一因です。一度捕獲に失敗した個体を再び箱罠で捕獲する



箱罠に掛かったハクビシン

ことは難しいため、捕獲をしようとする際は失敗のないように注意する必要があります。また、罠が稼働しないように扉を開けたまま固定し、餌をふんだんに入れて一定期間餌付けを行うと、罠への警戒が解けて捕獲されやすくなります。

なお、トラバサミやくくり罠は、捕獲対象外の動物も傷つける恐れがあるため、外来生物駆除の方法としては不適切です。

## 注意

人畜共通感染症を予防するため、公衆衛生上の最大級の配慮が必要です。箱罠やハクビシンが触れたものに触る際は、使い捨てゴム手袋を利用し、終わったら服や手を消毒しましょう。天井裏等に糞尿が残っている場合にも注意が必要です。また、ハクビシンにつくダニは草原にごく普通にいますため、野外でダニに噛まれたあと体調が悪くなった場合は医師に相談しましょう。



## 三浦半島での分布傾向

樹林や市街地を問わず、全域に生息しています。アライグマやタヌキのようにU字溝を通ることはあまりありませんが、電線を伝って市街地の隅々に浸透します。年間200個体程度が駆除されていますが、捕獲数は緩やかに増加傾向にあります。



夜間カメラがとらえたハクビシンの動画が見られます。

